

きよたまちづくり区民会議通信

第 5 号



発行元 きよたまちづくり区民会議

(事務局：清田区市民部地域振興課)

〒004-8612 札幌市清田区平岡 1 条 1 丁目

電話 011-889-2024

平成 25 年度の検討テーマを「豊かな自然環境を生かしたまちづくり」に決定しました

清田区では、豊かな自然環境を生かしてさまざまな団体がまちづくりに取り組んでいます。例えば、これらの取り組みどうし連携を図り、区全体の動きに広がっていくことができれば、まちづくり活動への機運はさらに高まり、魅力ある地域づくりがいつそう進んでいくものと考えています。

目標

- 環境意識の向上
- 清田区への愛着の深まり
- 地域のイメージアップ
- 区内外からの集客、にぎわいづくり

区民会議では、平成 25 年度、清田区の豊かな自然環境を保全・活用する取り組みを進めていきます。

例えばどんな取り組み？

- あしりべつ川の清掃活動やアイスキャンドルイベントの連携
いろいろな団体が別々に実施しているけど、同じ日に実施できたら、もっと盛り上がりにつながるのでは？
- 清田ブランドづくり
にぎわいづくりに向けて、清田の「水」を生かして何か魅力ある地域づくりをPRできないだろうか？



(これらは例示です。具体的には、第 1 回区民会議 (平成 25 年 5 月 29 日清田区役所 3 階大会議室) で検討していきます。)

防災標語

絶対に自分の命は自分で守る (近藤千陽さん)

「防災」をテーマにまちづくり (平成 23 年度～)

区民会議では、平成23年度から24年度にかけて「防災」を検討テーマとし、各家庭や地域に対して、災害に対する備えが十分になされるよう働きかけを進めてきました。災害発生時に、その被害を最小限に食い止めるには、日ごろから災害に備えておくことが大切です。



- 避難場所がどこにあるか確認して、避難経路を考えておこう。
避難場所が掲載されたパンフレットは、区役所などで配布しているよ。
- 家庭内備蓄は最低 3 日分を備えておこう。
災害状況によっては、備蓄物資がすぐに供給されないことも想定されるよ。
- 家具の固定をしておこう。
地震によるけがの原因の 4 割以上が家具の転倒・落下といわれているよ。

区民会議では、防災の取り組みが今後も継続して行われていくよう、引き続き各地域の取り組みについて情報共有を図っていきます。

※これまでの取り組みをホームページからご覧いただけます。

きよたまちづくり区民会議

で

検索

きよたまちづくり区民会議（1/29 第3回）を開催

1月29日に開催した平成24年度第3回区民会議では、24年度の取り組み報告のほか、25年度の検討テーマについて話し合いました。

3つのグループに分かれて検討テーマの内容や取り組みの方向性などについて話し合い、意見発表を行いました。

（主な意見）

- ・防災の取り組みは終わりのないもの。今後も継続すべき。
- ・防災活動について地区間で情報共有を図ることが大事。
- ・区内には水に関連する資源や取り組みが多い。自然環境から水というテーマのもと横のつながりを図っては。
- ・メイドイン清田の食べ物や清田ブランドを活用して集客を図っては。
- ・まずあしりべつ川周辺の整備から着手し、そこからにぎわいの創出を目指しては。
- ・区内には多くの飲食店があり、グルメマップをつくっては。
- ・魅力づくりと交通手段の確保は両輪で考えていくべきでは。
- ・白旗山の植樹などの活動を地域一体となって広めていきたい。
- ・白旗山からあしりべつ川、桜並木周辺の取り組みをマップで連続化を図っては。
- ・イベントありきではなく、住んでいる人の意見を考慮して地区の特性を生かした事業を考えていくべき。 など

▼ 1/29 区民会議の様子



▼ 3/19 区民会議の様子

⇒里美地区センターの石丸館長から事例発表



きよたまちづくり区民会議（3/19 第4回）を開催

3月19日に開催した第4回区民会議では、里塚・美しが丘地区センター館長の石丸浩一氏をお招きし、防災の取り組み事例の発表を通して情報共有を図りました。

また、25年度の検討テーマについては、前回会議での意見などを踏まえ、「豊かな自然環境を生かしたまちづくり」に決定しました。

宿泊型 避難所体験（里美地区）

実施日 平成24年12月1日～2日

会場 里塚・美しが丘地区センター

共催 里美町連・同地区センター・同まちづくりセンター

- ・真冬に停電・断水状態で避難所生活を体験し、災害時のことを考えた。
- ・実際に宿泊してみて、耳栓や枕、手回しラジオなどがあればよかった。
- ・避難所の運営に自ら携わっていかねばならないという認識を改めて持つことができた。
- ・参加者には、災害時のリーダーの役割を期待して修了証を交付した。